

# 公募等実施事項報告書（資金分配団体）

**事業名:** アディクション等を対象とした緊急支援事業  
**資金分配団体:** プラスソーシャルインベストメント株式会社  
**実行団体数:** 5団体  
**実施時期:** 2021年4月～2022年3月  
**事業対象地域:** 近畿・四国エリア  
**事業対象者:** アルコール・ギャンブル・薬物等のアディクション（依存症）及び精神などに障がいのある方

Version 1.0

日付: 2021年9月10日

## I. 公募～選定の結果

単位: 件

選定予定件数-計画	申請事業数-実数	申請団体数-実数	選定事業数-実数	選定団体数-実数
5~6	11	11	5	5

## II. 公募プロセス/実行団体の募集

募集の告知期間 ※告知開始～募集受付開始 (単位: 日)	募集の受付期間 (単位: 日)	募集の告知媒体の種類							
20	23	<input checked="" type="checkbox"/>	HP	<input checked="" type="checkbox"/>	SNS	<input type="checkbox"/>	チラシ	<input checked="" type="checkbox"/>	関連組織を通じた広報
		<input type="checkbox"/>	プレスリリース	<input type="checkbox"/>	その他	具体的な方法 ( )			
<b>実行団体の募集で工夫したこと、よかったこと</b> ・今回の対象エリアにある地元行政機関、大学、地元金融機関などと詳細に情報交換を行い、密接に連携することができたため、対象となる実行団体の地域で真剣に活動している団体の情報収集やコンタクトがスムーズに行えたこと。									
<b>実行団体の募集の課題</b> ・対象エリアである四国エリアに関しては、休眠預金事業そのものの認知度もまだまだ低く、今回申請を見合わせた団体も出てしまった。募集期間や広報期間をもう少し長くもち、説明会の開催頻度も増やすことで改善できると考えるが、今回の募集においては課題であったと感じている。									
<b>公募に申請した団体の情報を、募集終了時に Web サイト上で公表しましたか。対応状況の詳細と合わせて記載ください。</b>									
はい	ウェブサイト公開済みです								

## III. 公募プロセス/申請団体の審査

単位: 人

審査委員の人数 (合計)	審査委員の内訳	
	内訳:外部委員	内訳:内部委員
5	2	3

<b>審査の過程で第三者の意見聴取等、専門的な意見をどのように取り入れましたか。</b> ・外部委員を招くことで、専門的知識を活用する体制を整えた。学識経験者を委員長とし、弁護士、金融関係者、福祉分野の専門家、ソーシャルビジネスの専門家の5名で構成される選考会で採択団体を決定。実行団体の申請事業の内容について、事業内容は具体的か、実現可能性はあるのか、緊急コロナ枠の事業として妥当であるかについて協議した。内部委員3名となっているが、内2名は当社の外部取締役であり、客観的な審査が行えたと考えている。
<b>審査を行う者の利益相反の防止措置はどのように行いましたか。</b> ・審査の依頼にあたり、団体との関係性や、団体役員との個人的なつながりを事前に確認し、利害関係者に該当する場合は審査員から外すなどの対応を行った。実際に今回の審査においては利害関係者はいなかったため、当初想定した審査委員で審査を行った。
<b>申請団体のコンプライアンス/ガバナンス体制の確認をどのように行いましたか。</b> ・規定類の公開状態をWebで確認、不足する部分については審査の段階で提出を求めた。 ・また、今回の採択団体については必要な規定類が事前に整っていたため不足部分への追加対応はなかった。

<p><b>申請団体との面談(必要に応じて現地調査)はどのように実施しましたか。</b></p> <p>・今回のスケジュールにおいては申請書提出から採択までの審査委員会が短い期間であったため、オンラインによる募集説明会実施後に、個別に事前相談を希望された団体や事務局が関心をもった団体については、必要に応じて現地ヒアリング・現地確認などを積極的に行った。申請後には上記スケジュールの関係もあり、現地訪問はしていないが、必要に応じてオンラインによる面談・ヒアリングを複数回実施した。</p>
<p><b>申請団体の審査で工夫したこと、よかったこと</b></p> <p>・通常の申請資料は字数制限もあり、簡潔に事業内容や主旨を記載する必要があったため、補足資料の提出（パワーポイント4～5枚程度）を可能とした。こちらの資料は具体的な事業内容やイメージを写真や図式を使って補足しており、結果として審査委員のみなさんが視覚的に事業イメージをもつために役立った。</p>
<p><b>申請団体の審査で感じた課題</b></p> <p>・今回が初めての審査であったが、おおむね順調にできたと感じている。一方で募集期間、申請から審査会までの時間等は今回短かったため、もう少し改善の余地があると感じた。</p>

#### IV. 公募の設計/申請団体数・実行団体の事業内容

<p><b>(申請団体数)</b> 実行団体選定予定件数に対して申請団体数は想定通りでしたか。その要因と合わせてご記入ください。</p>	
<p>想定通り</p>	<p>・各地域の関係団体との連携が密接に行えたため</p>
<p><b>(申請団体の事業内容)</b> 設定した社会課題の解決に対して、選定した実行団体の事業内容（目標、対象者、地域、活動、金額、規模等）は想定通りでしたか。その要因と合わせてご記入ください。</p>	
<p>想定通りだった</p>	<p>・事前相談等を繰り返し行うことで、実行団体の事業内容と今回の助成事業の趣旨が事前にすり合わせできたため</p>

#### V. 選定結果の通知及び公開の状況

<p><b>(選定結果の通知)</b> 実行団体に選定しなかった申請団体に対し、その理由と改善すべき点を示しましたか。</p>	
<p>はい</p>	
<p><b>(選定結果の公開)</b> 選定結果について、webサイト上で広く一般に公開しましたか。</p>	
<p>はい</p>	
<p><b>(規定類の公開)</b> ガバナンス・コンプライアンス体制に関する規程類を、webサイト上で広く一般に公開しましたか。</p>	
<p>はい</p>	
<p><b>(人件費水準の公開)</b> 経費に人件費が含まれる場合、当該人件費の水準をwebサイト上で広く一般に公開しましたか。</p>	
<p>はい</p>	

#### VI. 公募の過程に伴う事業再検討結果（事前評価）

##### 課題の分析（ニーズの分析）

<p><b>課題の妥当性：助成申請時に想定していた課題の分析に対し、変更が発生した部分</b></p> <p>変更なし</p>
<p><b>事業対象の妥当性：助成申請時に想定していた課題の分析に対し、変更が発生した部分</b></p> <p>変更なし</p>

事業設計の分析（セオリーの分析）

事業設定の妥当性：助成申請時に想定していた事業設定に対し、変更が発生した部分
変更なし

見直し後の事業目標 及び アウトプット指標（実施・到達状況の目安とする指標）/把握方法/目標値/達成時期

今回の事業実行を通じた目標	実施・到達状況の目安とする指標	把握方法	目標値/目標状態

見直し後の事業実施後（1年後）以降に目標とする状態 及び その目安とする指標（※指標については設定可能であれば、で構いません）

今回の事業実行を通じた目標	目標値/目標状態

VII. 広報実績（公募関連以外）

広報内容	有無	内容
メディア掲載（TV・ラジオ・新聞・雑誌・WEB等）	無	
広報制作物等	無	
報告書等	無	

VIII. ガバナンス・コンプライアンスの確認

ガバナンス・コンプライアンス体制	状況	内容
1. 社員総会、理事会、評議会は定款の定める通りに開催されていますか。	はい	
2. 内部通報制度は整備されていますか。	はい	
3. 利益相反防止のための自己申告を定期的に行っていますか。	はい	
4. 関連する規程の定めどおり情報公開を行っていますか。	はい	
5. コンプライアンス委員会は定期的開催されていますか。	はい	
6. 実行団体に規程類の整備について説明をしましたか。	はい	